

平成29年度第3回公立大学法人福知山公立大学評価委員会 議事録概要

1 日 時 平成29年8月9日(水) 15:00～17:00

2 場 所 福知山市役所 全議員協議会室

3 出席者

委員	青山委員長、大久保委員長職務代理、菊田委員、中井委員、細見委員
福知山市	大橋市長(途中退席)、大西次長、岸本課長補佐、外賀主任、大槻主査、中田囑託
福知山公立大学	竹友事務局次長

4 議題

【議題1】平成28年度公立大学法人福知山公立大学業務実績評価書の修正審議について

【議題2】平成28年度公立大学法人福知山公立大学財務諸表及び利益処分の承認に係る意見について

5 会議概要

	議題	内容
1	【議題1】平成28年度公立大学法人福知山公立大学業務実績評価書の修正審議	【資料1】【資料2】【資料3】【資料4】により説明
2	【議題2】平成28年度公立大学法人福知山公立大学財務諸表及び利益処分の承認に係る意見	【資料5】【資料6】【資料7】【資料8】により説明
3	意見交換・質疑等	(主な意見) 【議題1】 ■北近畿地域の学生獲得に向けてもう少し努力いただきたい。 ■地元以外の高校を訪問するコストパフォーマンスを考えると、地元を中心に高校訪問する必要があるのではないかと。地元志向で取り組んでほしい。 ■意見書の取扱いや意見書の内容を業務実績評価書にどのように反映させるのか検討必要。 【議題2】 ■財務諸表、利益処分について承認することは適当である。

6 開催結果概要

【平成28年度公立大学法人福知山公立大学業務実績評価結果】

【全体評価結果】

評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

【大項目別評価結果】

大項目	評定	評価結果	S	A	B	C	D
			中期計画の達成に向け特筆すべき進捗状況である	中期計画の達成に向け順調に進捗している	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している	中期計画の達成のためには進捗が遅れている	中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある
第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置	B				○		
第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置	B				○		
第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 3 地域協働(地域貢献)の質の向上に関する目標を達成するための措置	B				○		
第5 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	B				○		
第6 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	B				○		
第7 自己点検・評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置	B				○		
第8 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	B				○		
第14 福知山市の規則で定める業務運営に関する事項	B				○		

【小項目別評価結果】

大項目番号	項目	項目数	評価委員会評価結果					評定平均値
			5	4	3	2	1	
1	第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置	36	0	3	33	0	0	3.1
			0.0%	8.3%	91.7%	0.0%	0.0%	
2	第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置	8	0	0	8	0	0	3.0
			0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
3	第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 3 地域協働(地域貢献)の質の向上に関する目標を達成するための措置	12	0	2	9	1	0	3.1
			0.0%	16.7%	75.0%	8.3%	0.0%	
4	第5 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	24	0	0	23	1	0	3.0
			0.0%	0.0%	95.8%	4.2%	0.0%	
5	第6 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	20	0	2	16	2	0	3.0
			0.0%	10.0%	80.0%	10.0%	0.0%	
6	第7 自己点検・評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置	11	0	0	11	0	0	3.0
			0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
7	第8 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	11	0	1	10	0	0	3.1
			0.0%	9.1%	90.9%	0.0%	0.0%	
8	第14 福知山市の規則で定める業務運営に関する事項	4	0	0	4	0	0	3.0
			0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
合計		126	0	8	114	4	0	3.0
			0.0%	6.3%	90.5%	3.2%	0.0%	

【平成28年度公立大学法人福知山公立大学財務諸表及び利益処分承認に係る意見】

- 地方独立行政法人法第34条第1項の規定に基づき届出された平成28年度財務諸表については、承認することが適当である。
- 地方独立行政法人法第40条第3項の規定に基づき申請された平成28年度剰余金のうち中期計画に定める用途に充てられる額については、承認することが適当である。

7 次第

(1)開会挨拶 青山委員長

(2)事務局挨拶 大橋市長

(3)事務局説明

- 【資料1～4】により法人意見書の7項目について再評価いただくとともに、業務実績評価書(案)について修正審議いただきたいことを説明。
- 【資料5～8】により財務諸表の承認に係る事務局確認事項及び利益処分の承認に係る意見書(案)を説明。

【議題1】

平成28年度公立大学法人福知山公立大学業務実績評価書の修正審議について

(青山委員長)

本日は、法人意見書の7項目について再度議論したい。

【項目 No10「ディプロマ・ポリシーを明確に定める。」】

(委員)

- ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーは、しっかり作り込みがなされており評価できる。
- ただし、各ポリシーの策定は学校教育法に定められているため、定めるだけでは十分ではない。
- 評価を「4」にするには、ディプロマ・ポリシーを定めたことが学生の人材育成にどのようにつながるのかが明確である必要がある。
- 法人の努力は評価するが、学修アウトカムが明確でないため、「4」は難しい。

(委員)

- ディプロマ・ポリシーを明確にし、教育の質をどのように担保するのが業務実績報告書に記載されていないため、「4」は難しい。

(委員)

- 「3」が適切と考える。

(委員)

- 「3」が適切と考える。

(委員)

- ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーは良いものであると評価する。
- ただし、ディプロマ・ポリシーがカリキュラム・ポリシーにどのように反映し、また、カリキュラム・ポリシーが福知山公立大学の求める人材像にどのようにつながるかが読み取れない。
- 「3」が適切だと考える。

【結論】項目 No.10 は、評価「3」が適切。

【項目 No12】「GPA(成績評価係数)による学業評価を学生指導に役立てる。」

(委員)

- 意見書を拝見すると、「4」をつけてもよいと考える。この内容を業務実績報告書に記載いただきたかった。

(委員)

- GPA1.0 未満の学生が 18.2%いるということは、学生をもっとサポートする必要があると考える。
- GPA 評価を活用し、学生にしっかり指導した記載を拝見する限り、「4」が適切ではないか。

(委員)

- GPA1.0 未満の学生が 18.2%もいることは、通常であるとは言えない。しっかりとした教育内容の充実を図るべきである。そのため「3」が妥当ではないか。

(委員)

- 学生の中には、不本意ながら入学した学生もいるかもしれない。しかし、GPA1.0 未満が 18.2%もいるということは、しっかりとした教育ができていないとも読み取ることができる。

(青山委員長)

- この項目については保留にしておき、最後に再審議する。

【項目 No13】「ディプロマ・ポリシーに基づき、明確なカリキュラム・ポリシーを策定する。」

(委員)

- 「3」が適切ではないか。

(委員)

- 教育内容にディプロマ・ポリシーがどのように影響するのか読み取れない。そのため「3」が適切ではないか。

(委員)

- カリキュラム・ポリシーを策定しているだけなので、「3」が適切ではないか。

(委員)

- 体系的なカリキュラムを備えて学生を受け入れていく必要がある。「3」が適切である。

【結論】 項目 No.13 は、評価「3」が適切。

【項目 No14】「カリキュラム・ポリシーに基づき、現行カリキュラムの内容や科目の見直しを行い、専門的かつ体系的なカリキュラムを構築する。」

(委員)

- 意見書にはしっかり書かれているが、業務実績報告書に十分な記載がないのが残念である。「3」が適切ではないか。

(委員)

- 今回の意見書を踏まえた評価はどういった取扱いになるのか。前回は第1次、今回を第2次評価として取り扱い、意見書の内容は追記という形で記載されることになるのか。
- ステークホルダーに納得していただける見せ方をする必要がある。

(委員)

- 今回の再評価を行った根拠資料として掲載するのか。もし、今回の意見書の内容を踏まえて、業務実績評価書の法人の計画の実施状況欄を修正するという事になれば、提出した後に何でも修正できることになるのではないかな。

(委員)

- この意見書は最終評価を行った根拠資料のひとつとなる。もし評価を見直すのであれば、その根拠を明確にする必要があるので、追記という形で行うべきではないかな。

(委員)

- 市民にわかりやすく示すという観点で考えると意見書を公表したほうがいいのではないかな。

(委員)

- 今後、意見書の内容を業務実績評価書に追記するといった対応を可能とした場合、法人が当初作成する業務実績報告書の記述が疎かになる恐れが生じないかな。

(委員)

- 評価の根拠資料として意見書を公表したほうがわかりやすいと思うが、業務実績評価書に意見書の内容を追記することが適正であるか疑問である。

(事務局)

- 他自治体の取扱いを検証の上、整理する。

(青山委員長)

- この項目については保留にしておき、最後に再審議する。

【項目 No21】「ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえて明確なアドミッション・ポリシーを定め、大学案内や学生募集要項、ホームページ等を活用して公表及び周知を行う。」

(委員)

- 項目 No.21 と項目 No.87 は、今年度の評価結果が来年度以降の評価のベースになるので、注意深く見ていきたい。

(委員)

- 意見書に記載されている学生募集活動の結果、一定の成果が出ているため、「4」が適当であると考ええる。

(委員)

- 同じ意見である。

(委員)

- 1期生として、多くの学生を迎え入れることができたと考ええる。意見書の内容を踏まえると、「4」が適当でないかな。

(委員)

- 多くの志願者があり、学生募集活動の成果が出ているものと考えられる。

【結論】項目 No.21 は、評価「4」に修正する。

【項目 No.56】「地元企業等の学内説明会を開催する。」

(委員)

- 開学初年度としてはまずまずの参加企業数、参加学生数であり、一定の評価ができる。ただし、年度計画が具体的でないため評価しにくい。「3」にするのか「4」にするのか迷いどころではあるが、計画の実施状況に記述の工夫が必要である。

(委員)

- 地元企業等合同就職説明会を開催した結果、参加した学生が就職活動にどのようにつながったのか、企業からどのような反応があったのかなどを記載してほしい。現実的には、このような説明会は年1～2回程度しか開催できないのかもしれないが、出口対策にもっと期待したい。

(委員)

- 開催回数だけでなく、開催した結果を記載してほしい。

(委員)

- 直近の課題として、私立大学時代の市外から入学した学生がこの地域で就職いただけるかどうか重要である。福知山市外から福知山公立大学に入学した学生がこの地域に就職するようになれば「4」をつけたいが、現時点では「3」が適当ではないか。

(委員)

- 「3」が適当である。

【結論】項目 No.56 は、評価「3」が適当。

【項目 No.87】「福知山市及びその隣接地域の全高校並びに前年度志願者が5名以上の北近畿地域の高校に対しては年内に3回訪問し、志願者増に努める。」

(委員)

- 726の高校を訪問し、結果として全国から多数の志願者を獲得しており、評価できる。仮に今回の実績で「3」とすれば、来年度の実績が今年度を下回った場合、「2」をつけざるを得なくなってしまう。個人的にはよくやったのではないかと評価する。

(委員)

- 訪問回数はたしかに努力されているが、地元からの入学者が少ない。意見書には平成28年度入試で5名以上の志願者があった近隣高校に訪問した回数が記載されているが、北近畿地域の高校は一番重視すべきところであり、北近畿地域の学生獲得に向け、もう少し努力いただきたい。「3」が適当であると考えます。

(委員)

- 近くの福知山高校、成美学園でさえ、4回の訪問数である。この訪問回数が多いのか少ないのか判断しかねるが、北近畿地域の高校への高校訪問はもう少し力を入れるべきではないか。「3」が適当であると考えます。

(委員)

- 福知山公立大学にとっての一番の課題は、地元からの評価を上げることである。地元高校から評価いただけるよう、もう少し力を入れていただきたい。

(委員)

- 意見書には三丹地域高校の志願者が平成28年度入試から平成29年度入試において50%減となったと記載されている。大学設置の理念を考えると、この地域の高校生から信頼を勝ち取る必要がある。地元以外の高校を訪問するコストパフォーマンスを考えると、地元を中心に高校訪問する必要があるのではないかと。全国から多くの志願者があったという観点で考えると「4」だが、この地域からの志願者が少ないということを考えると「3」ではないか。

(委員)

- もう少し地元重視でやっていく必要があるのではないかと。全国から学生が集まることにも利点はあるが、地元からの志願は必須であるため、もっと地元志向で取り組んでほしい。今後への期待の意味も含めて「3」が適当であると考えている。

【結論】項目 No.87 は、評価「3」が適当。

【項目 No.12】「GPA(成績評価係数)による学業評価を学生指導に役立てる。」(再審議)

(委員)

- 意見書の内容を踏まえるのであれば、「4」が適当ではないか。

(委員)

- 意見書には学生への面談を通して後学期には出席不振学生が減少し、学生の単位取得数が向上しているとあり、学生指導に役立っていると判断できる。「4」が適当ではないか。

(委員)

- 学業評価を福知山公立大学の約2割の学生の学生指導に活かしたということであれば、「4」と評価できる。

(委員)

- 皆様の御意見に賛同。4が適当であると判断する。

【結論】項目 No.12 は、評価「4」に修正する。

【項目 No.14】「カリキュラム・ポリシーに基づき、現行カリキュラムの内容や科目の見直しを行い、専門的かつ体系的なカリキュラムを構築する。」(再審議)

(委員)

- ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーは大学としてもかなり力を入れて作っていることは評価するが、学生の人材育成にどのようにつながるのかが明確である必要があるため、評価委員会としては「3」が適当であると判断する。

【結論】項目 No.14 は、評価「3」が適当。

【意見書の公表について】

(青山委員長)

- 意見書の内容を業務実績評価書にどのような形で反映させるのか事務局と相談させていただきたい。他大学の慣例にとらわれず、市民の目線で分かりやすさを追求したい。

(事務局)

- 意見書は福知山市ホームページ上で公表する。意見書の内容を業務実績評価書にどのように反映するかは検討させていただきたい。
- なお、審議の経過は、議事録にまとめ、福知山市ホームページで公表させていただく。

(青山委員長)

- 事務局には、本日の評価結果を業務実績評価書への反映をお願いしたい。後日、私から福知山市長に報告するとともに法人にも通知させていただく。

【議題2】平成28年度公立大学法人福知山公立大学財務諸表及び利益処分に関する意見について

(委員)

- ある程度フリーに動ける幅を法人に持たせないといけないのではないか。
- 財務諸表及び利益剰余金について承認する。

(委員)

- 財務諸表及び利益処分について、ルールに則っており承認する。教職員の人員が少ないことについては業務実績評価書に記載されているため問題ない。

(委員)

- 法人が本来行うべきことに取り組む中で経営努力がなされていると判断できるため、承認する。

(委員)

- 前回意見のあった教職員数が少ないことに対して付帯意見を付すかどうかについては、業務実績評価書に記載されているため問題ないと判断する。
- 財務諸表及び利益剰余金について、承認する。

(青山委員長)

- 評価委員会として、財務諸表及び利益処分については承認することが適当であるとし、後日、業務実績評価書とともに私から福知山市長に報告させていただく。

7 その他

(委員)

- 業務実績評価の評定平均値は「3」であるが、これは計画どおり進んでいるということであり、大変良いことである。市長と法人にその旨お伝えさせていただきたい。
- 始まったばかりの大学であるので、厳しい意見を申しているが、今後期待している。

8 閉会

以上